



## 2024年4月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2023年12月14日

上場会社名 Hamee株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 3134 URL <https://hamee.co.jp/>  
 代表者(役職名) 代表取締役社長 (氏名) 水島 育大  
 問合せ先責任者(役職名) 執行役員 (氏名) 富山 幸弘 (TEL) 0465-25-0260  
 四半期報告書提出予定日 2023年12月14日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (アナリスト・機関投資家等向けに  
 12月15日に開催予定)

(百万円未満切捨て)

## 1. 2024年4月期第2四半期の連結業績(2023年5月1日~2023年10月31日)

## (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年4月期第2四半期	7,631	15.0	633	10.3	700	△7.5	201	△59.2
2023年4月期第2四半期	6,633	11.5	574	△49.4	757	△37.0	495	△47.5

(注) 包括利益 2024年4月期第2四半期 552百万円(12.4%) 2023年4月期第2四半期 491百万円(△42.1%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年4月期第2四半期	12.69	12.68
2023年4月期第2四半期	31.13	31.13

## (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年4月期第2四半期	13,196	9,156	68.7
2023年4月期	12,320	8,960	72.0

(参考) 自己資本 2024年4月期第2四半期 9,062百万円 2023年4月期 8,864百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年4月期	—	0.00	—	22.50	22.50
2024年4月期	—	0.00			
2024年4月期(予想)			—	22.50	22.50

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 2024年4月期の連結業績予想(2023年5月1日~2024年4月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	16,813	19.8	2,086	64.1	2,069	47.8	1,537	62.7	94.46

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

(注) 当社は年次で業績管理を行っているため、業績予想につきましては通期のみの記載となります。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無  
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)  
新規 一社 (社名) 、除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2024年4月期2Q	16,280,000株	2023年4月期	16,280,000株
② 期末自己株式数	2024年4月期2Q	355,537株	2023年4月期	363,737株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2024年4月期2Q	15,917,689株	2023年4月期2Q	15,900,934株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件および業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P4「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	5
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 .....	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	10
(継続企業の前提に関する注記) .....	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	10
(セグメント情報等) .....	11
(重要な後発事象) .....	12

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間における我が国の経済は、9月の日銀短観によると大企業全産業のD I（業況判断指数）が製造業では2四半期連続の改善、非製造業では6四半期連続の改善となり、経済活動の正常化による個人消費の持ち直しの動きが見られました。一方、原燃料価格の高騰や円安の進行、さらにウクライナ情勢の長期化等により、景気減速が懸念されるなど依然として先行きの不透明感が拭えない状況が続いております。

このような経営環境の下で、当第2四半期連結累計期間における当社グループのセグメントごとの経営成績は次のとおりとなりました。

#### ① コマースセグメント

##### a. モバイルライフ事業

当第2四半期連結累計期間における最大の販売機会である新型iPhone商戦では、人気のiFaceシリーズのReflectionシリーズやFirst classシリーズ等96種類の商品展開を実施し、昨年を超える水準にて販売活動を行いました。また、新型iPhone以外の機種向け商品や、有力I Pとのコラボレーションによる市場トレンドを取り入れた新商品を継続的に市場投入する各種施策を展開すると共に、新たなトレンド創出として、MagSafe対応iFace（Magneticシリーズ）等の販売に注力した結果、E Cおよび卸販売共に順調に売上を拡大し、売上高は前年同期比5.3%増となりました。

##### b. ゲーミングアクセサリ事業

前期において価格と性能面のバランスが評価され、Pixioブランドが認知された結果、順調に販売が拡大いたしました。当第1四半期より競合他社製品との競争の激化が見られ、第2四半期も引き続き同様のトレンドで推移いたしました。これを打破する新規施策として、大手家電量販店等卸販売先の開拓に尽力したほか、ホワイトモデルのゲーミングモニターおよびモニターアーム等の周辺機器を新商品として市場に投入するなどトップラインの向上に努めましたが、売上高は前年同期比4.6%減となりました。

##### c. コスメティクス事業

2023年4月にT V番組で紹介されたことをきっかけに大躍進したByURブランドは前期第4四半期の好調さを引き続き維持しており、売上高が計画の2倍を上回る状態となっております。E C市場における存在感が増したことで、新規卸販売先との契約が大幅に増加しており、E Cおよび卸販売共に好調を維持しております。さらに秋の新商品展開に合わせ広告宣伝投資を実施したことで、ベースメイクおよびスキンケア商材共に認知が拡大いたしました。その結果、売上高は前年同期比1001.3%増となりました。

##### d. グローバル事業

韓国市場、米国市場、中国市場ともにグループ外に対する売上高は第1四半期から好調となっており、増収（前年同期比31.3%増）となりました。これは主に今年1月に事業譲受をいたしました音楽雑貨オタマトーンの販売が米国市場において好調に推移したためであります。しかしながら、売上が好調なコスメティクス事業関連商品のグループ間取引の増加による売上高の連結消去の額が増加していることから、連結調整後の売上高は前年同期比0.3%減となりました。

これらの結果、コマースセグメントの当第2四半期連結累計期間の売上高は5,992,596千円（前年同四半期比18.9%増）、セグメント利益（営業利益）は393,007千円（同4.2%増）となりました。

## ② プラットフォームセグメント

## a. ネクストエンジン事業

前連結会計年度において認識した下記の経営環境の変化について、第1四半期において新規顧客の流入状況に回復の兆しが認められましたが、当第2四半期会計期間については夏季休暇に伴う「コト消費」へのシフト等の要因により、EC市場は依然低迷が続いており、市況の改善にはいまだ時間を要するものと判断しております。

## i. EC市場における構造変化

コロナ禍でEC業界へ進出する事業者が増加したものの、プレーヤー増加による競争環境の激化によって、ブランド力や財務的に余力のあるEC事業者と、そうでない事業者との間の格差が広がり、業界として二極化が進んだ。

## ii. コロナ禍で進んだ消費行動の反動

コロナ禍で消費行動のデジタルシフトが進んだが、ワクチン接種の浸透、重症者数の減少などを背景にリアル店舗での消費が増大傾向にあることや、自粛期間を経てモノ消費からコト消費（旅行やイベントなど）にシフトする傾向が強まったこと等、デジタルシフトの反動が顕著になった。

## iii. EC事業者の喫緊の経営課題のシフト

上記を背景に、EC事業者の経営上の優先課題がバックオフィス業務の効率化から、売上極大化及び利益の確保へシフトしており、各種の業務効率化サービスの導入意欲が一時的に減退していると考えられる。

2023年6月に実施したサービス価格の改定により、EC販売における流通額が小規模な事業者様への間口が広がると同時に、従量課金の基礎となる受注処理件数の増加が利用料金に反映しやすくなりました。特に基本利用料を月額10,000円から3,000円に引き下げたことで、無料契約の申込が増加したこともあり、契約獲得ペースに回復が見られ、当第2四半期の契約純増数は261社となりました。しかしながら、EC市場の低迷に伴いユーザーであるEC事業者の受注処理件数の減少傾向からARPUの低下が認められるなど、引き続き楽観できない状況にあります。

また、前連結会計年度に引き続いてECから撤退する事例が一定数認められるものの解約数自体は引き続き低位で推移し、当第2四半期の解約率は0.82%となりました。

これらを背景として、ネクストエンジン事業の売上高は前年同期比3.8%増となりました。

## b. コンサルティング事業

引き続きコンサルタントのリソース確保という経営課題に継続的に取り組むと同時に、業績改善に向けた新たな成長戦略を推進している途上にあります。コンサルタント不足に起因する売上の減少はあるものの、採算性を重視した活動に注力しており、第2四半期の営業利益の実績は期初計画を上回ることが出来ました。なお、前年同期に対して大幅に減収となった外観を呈しておりますが、これは前期においてNE株式会社がコンサルティング事業を担うHameeコンサルティング株式会社を吸収合併したことに伴い、7か月分の業績を取り込んだため、前期の売上水準が1か月分過大に計上されていることが要因であります。

## c. ロカルコ事業

10月に施行された、ふるさと納税に係る一部制度変更に起因する駆け込み需要が発生し、9月に大きく売上を伸ばしました。10月に入り当該駆け込み需要の反動減が認められたものの、第2四半期の売上高は前年同期比45.2%増となりました。なお、第2四半期において新たな自治体との契約2件を獲得することができました。引き続き既存契約自治体への付加価値提供と新規自治体との契約獲得に注力してまいります。

これらの結果、プラットフォームセグメントの当第2四半期連結累計期間の売上高は1,645,028千円(前年同四半期比3.2%増)、セグメント利益(営業利益)は758,502千円(同15.6%増)となりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間における売上高は7,631,488千円(前年同四半期比15.0%増)、営業利益は633,632千円(同10.3%増)、経常利益は700,329千円(同7.5%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益は201,947千円(同59.2%減)となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

## ① 資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期連結会計期間末の資産につきましては、前連結会計年度末と比べ876,141千円増加し、13,196,628千円となりました。これは主に、商品が856,124千円増加したこと、売上高増加により受取手形及び売掛金が352,824千円増加したこと、その他の流動資産が221,139千円増加したこと、原材料及び貯蔵品が78,286千円増加したこと、投資有価証券が56,848千円増加した一方で、現金及び預金が553,125千円減少したこと、連結子会社から当社への配当方針を変更したことに伴い繰延税金資産が201,434千円減少したことなどの結果によるものであります。

負債につきましては、前連結会計年度末と比べ680,349千円増加し、4,040,335千円となりました。これは主に、長期借入金360,000千円増加したこと、未払金が334,579千円増加したこと、買掛金が173,576千円増加した一方で、未払法人税等が199,353千円減少したこと、短期借入金が100,000千円減少したことなどによるものであります。

純資産につきましては、前連結会計年度末と比べ195,791千円増加し、9,156,292千円となりました。これは主に、為替換算調整勘定が307,781千円増加したこと、その他有価証券評価差額金43,151千円増加した一方で、利益剰余金が162,152千円減少したことなどによるものであります。

## ② キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、前連結会計年度末に比べ553,125千円減少し、2,982,543千円となりました。

当第2四半期連結会計期間末における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

## (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果使用した資金は245,902千円(前年同四半期は118,793千円の支出)でありました。これは主に、税金等調整前四半期純利益696,355千円、未払金の増加419,472千円、減価償却費336,578千円等の収入要因に対し、棚卸資産の増加857,044千円、その他598,592千円、売上債権の増加289,446千円等の支出要因があったことによるものであります。

## (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は299,442千円(前年同四半期は529,912千円の支出)でありました。これは主に、有形固定資産の売却による収入454千円等の収入要因に対し、有形固定資産の取得214,461千円、ソフトウェア等の無形固定資産の取得79,240千円、その他6,194千円等の支出要因があったことによるものであります。

## (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は79,313千円(前年同四半期は48,919千円の収入)でありました。これは主に、長期借入金450,000千円の収入要因に対し、配当金の支払い358,116千円、短期借入金の返済による支出100,000千円、リース債務の返済による支出71,196千円等の支出要因があったことによるものであります。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

業績予想につきましては、2023年6月14日に公表いたしました通期連結業績予想に変更はありません。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年4月30日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年10月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	3,535,669	2,982,543
受取手形及び売掛金	1,797,001	2,149,825
商品	1,643,852	2,499,977
仕掛品	10,658	17,252
原材料及び貯蔵品	35,569	113,855
その他	1,597,362	1,818,502
貸倒引当金	△38,135	△47,151
流動資産合計	8,581,977	9,534,805
固定資産		
有形固定資産		
建物	745,514	812,782
減価償却累計額	△129,270	△167,352
建物(純額)	616,243	645,430
車両運搬具	3,604	3,883
減価償却累計額	△863	△1,319
車両運搬具(純額)	2,740	2,564
工具、器具及び備品	1,040,999	1,288,955
減価償却累計額	△722,982	△923,981
工具、器具及び備品(純額)	318,016	364,973
使用権資産	355,894	401,376
減価償却累計額	△123,214	△195,737
使用権資産(純額)	232,679	205,639
土地	337,086	363,243
建設仮勘定	1,564	1,686
有形固定資産合計	1,508,332	1,583,536
無形固定資産		
のれん	490,930	473,337
ソフトウェア	305,312	297,426
商標権	15,219	17,522
その他	14,098	14,597
無形固定資産合計	825,562	802,884
投資その他の資産		
投資有価証券	550,030	606,879
関係会社株式	45,018	46,673
退職給付に係る資産	143,447	144,800
繰延税金資産	563,817	362,382
その他	118,340	134,341
貸倒引当金	△16,039	△19,675
投資その他の資産合計	1,404,614	1,275,402
固定資産合計	3,738,509	3,661,823
資産合計	12,320,486	13,196,628

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年4月30日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年10月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	166,048	339,624
短期借入金	1,300,000	1,200,000
1年内返済予定の長期借入金	—	90,000
未払金	862,932	1,197,511
未払費用	245,155	237,492
未払法人税等	438,653	239,300
賞与引当金	25,201	29,940
その他	198,268	219,280
流動負債合計	3,236,260	3,553,151
固定負債		
長期借入金	—	360,000
資産除去債務	11,341	12,221
繰延税金負債	—	22,753
その他	112,384	92,209
固定負債合計	123,725	487,184
負債合計	3,359,985	4,040,335
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	598,262	598,262
資本剰余金	543,737	544,751
利益剰余金	7,834,362	7,672,210
自己株式	△349,636	△341,754
株主資本合計	8,626,725	8,473,470
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	3,163	46,315
為替換算調整勘定	235,004	542,785
その他の包括利益累計額合計	238,167	589,101
新株予約権	95,608	93,721
純資産合計	8,960,501	9,156,292
負債純資産合計	12,320,486	13,196,628

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2022年5月1日 至2022年10月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自2023年5月1日 至2023年10月31日)
売上高	6,633,562	7,631,488
売上原価	2,635,886	2,910,376
売上総利益	3,997,676	4,721,112
販売費及び一般管理費	3,423,302	4,087,479
営業利益	574,373	633,632
営業外収益		
受取利息	4,720	454
消費税差額	10	22,798
持分法による投資利益	1,121	1,869
為替差益	167,309	41,339
その他	18,389	21,672
営業外収益合計	191,551	88,134
営業外費用		
支払利息	4,571	15,314
支払保証料	3,868	3,887
その他	191	2,235
営業外費用合計	8,631	21,437
経常利益	757,293	700,329
特別利益		
固定資産売却益	792	103
新株予約権戻入益	—	1,887
特別利益合計	792	1,990
特別損失		
固定資産除却損	7,486	893
投資有価証券評価損	14,253	5,070
特別損失合計	21,739	5,963
税金等調整前四半期純利益	736,346	696,355
法人税、住民税及び事業税	194,415	269,286
法人税等調整額	46,873	225,121
法人税等合計	241,289	494,408
四半期純利益	495,056	201,947
親会社株主に帰属する四半期純利益	495,056	201,947

## 四半期連結包括利益計算書

## 第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年5月1日 至 2022年10月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年5月1日 至 2023年10月31日)
四半期純利益	495,056	201,947
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△429	43,151
為替換算調整勘定	△2,848	307,781
その他の包括利益合計	△3,278	350,933
四半期包括利益	491,778	552,880
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	491,778	552,880
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2022年5月1日 至2022年10月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自2023年5月1日 至2023年10月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	736,346	696,355
減価償却費	308,709	336,578
のれん償却額	107,707	54,233
有形固定資産除却損	7,486	893
有形固定資産売却損益(△は益)	△792	△103
投資有価証券評価損益(△は益)	14,253	5,070
貸倒引当金の増減額(△は減少)	8,785	9,162
賞与引当金の増減額(△は減少)	△30,393	2,710
退職給付に係る資産・負債の増減額	△64,849	9,523
受取利息及び受取配当金	△4,720	△454
支払利息	4,571	15,314
持分法による投資損益(△は益)	△1,121	△1,869
売上債権の増減額(△は増加)	△162,357	△289,446
棚卸資産の増減額(△は増加)	△319,325	△857,044
仕入債務の増減額(△は減少)	120,896	148,411
前渡金の増減額(△は増加)	151,356	△15,396
未払金の増減額(△は減少)	3,555	419,472
未払費用の増減額(△は減少)	△3,225	△13,782
その他	△673,891	△598,592
小計	202,992	△78,962
利息及び配当金の受取額	634	9,633
利息の支払額	△1,273	△2,014
法人税等の支払額	△321,147	△174,558
営業活動によるキャッシュ・フロー	△118,793	△245,902
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△171,397	△214,461
有形固定資産の売却による収入	872	454
無形固定資産の取得による支出	△111,100	△79,240
投資有価証券の取得による支出	△10,900	—
貸付けによる支出	△270,600	—
その他	33,212	△6,194
投資活動によるキャッシュ・フロー	△529,912	△299,442
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	500,000	△100,000
長期借入れによる収入	—	450,000
長期借入金の返済による支出	△24,018	—
リース債務の返済による支出	△69,328	△71,196
配当金の支払額	△357,734	△358,116
財務活動によるキャッシュ・フロー	48,919	△79,313
現金及び現金同等物に係る換算差額	42,124	71,532
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△557,661	△553,125
現金及び現金同等物の期首残高	4,025,758	3,535,669
現金及び現金同等物の四半期末残高	3,468,096	2,982,543

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自 2022年5月1日 至 2022年10月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	コマース	プラット フォーム	計		
売上高					
顧客との契約から生じる 収益	5,041,852	1,591,710	6,633,562	—	6,633,562
外部顧客への売上高	5,041,852	1,591,710	6,633,562	—	6,633,562
セグメント間の 内部売上高又は振替高	—	2,025	2,025	△2,025	—
計	5,041,852	1,593,735	6,635,588	△2,025	6,633,562
セグメント利益	377,175	656,139	1,033,314	△458,941	574,373

(注) 1 セグメント利益の調整額△458,941千円は主に各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に一般管理費であります。

(注) 2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第2四半期連結累計期間(自 2023年5月1日 至 2023年10月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	コマース	プラット フォーム	計		
売上高					
顧客との契約から生じる 収益	5,991,556	1,639,932	7,631,488	—	7,631,488
外部顧客への売上高	5,991,556	1,639,932	7,631,488	—	7,631,488
セグメント間の 内部売上高又は振替高	1,040	5,095	6,136	△6,136	—
計	5,992,596	1,645,028	7,637,625	△6,136	7,631,488
セグメント利益	393,007	758,502	1,151,510	△517,877	633,632

(注) 1 セグメント利益の調整額△517,877千円は主に各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に一般管理費であります。

(注) 2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

## (重要な後発事象)

## (取得による企業結合)

当社は、2023年9月15日開催の取締役会において、株式会社anea design(以下、anea design社)の80%の株式を取得し、子会社化することについて決議し、2023年9月30日付けで株式譲渡契約を締結しました。また、2023年11月2日付けでanea design社の普通株式80株を取得しました。

## 1. 企業結合の概要

## (1) 被取得企業の名称及びその事業の内容

被取得企業の名称：株式会社anea design

事業の内容：園芸事業、インテリア事業

## (2) 企業結合を行った主な理由

anea design社は2014年より塊根植物のEC販売をはじめ、2016年に塊根植物を中心としたショップ「BOTANIZE」を代官山にオープンし、現在は白金店と表参道店を運営しています。昨今の塊根植物ブームの火付け役として、国内外の知名度が高く、国内の若手アーティストの支援に力を入れ、ギャラリーでの紹介や各種コラボレーションも行っており、Instagramのインフルエンサーとしての発信にも注目が集まっています。今後は当社が持つIT、モノづくり、EC販売のノウハウを活かしながら、より多くの皆さまにご満足いただける「BOTANIZE」ブランドを目指すとともに、既存ブランドの価値向上、新規ブランドの創出、他社ブランドのM&A等を通して、当社グループの更なる事業成長へ繋がるものと判断したためであります。

## (3) 企業結合日

2023年11月2日（みなし取得日 2024年1月31日）

## (4) 企業結合の法的形式

現金を対価とする株式の取得

## (5) 結合後企業の名称

変更はありません。

## (6) 取得した議決権比率

80.00%

## (7) 取得企業を決定するに至った主な根拠

当社が現金を対価として株式を取得したことによるものであります。

## 2. 被取得企業の取得原価及び対価の種類ごとの内訳

取得の対価	現金	300,000千円
取得原価		300,000千円

## 3. 主要な取得関連費用の内容及び金額

アドバイザーに対する報酬・手数料等 1,396千円

## 4. 発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

現時点では確定しておりません。

## 5. 企業結合日に受け入れた資産及び引き受けた負債の額並びにその主な内訳

現時点では確定しておりません。